

社会言語学会の会員の皆様へ

学会誌編集委員会委員長
荻野綱男

学会誌「社会言語科学」原稿募集

今年の1月に学会が発足してから、学会誌編集委員会が正式にスタートし、各種の活動を行なっています。

会員の皆様におかれましては、是非ふるって論文をご投稿ください。

この予稿集の巻末に編集規定・投稿規定・執筆要項を示しますので、それにしたがって論文をご用意ください。

論文は随時受け付けております。受け付けた論文は、編集委員会で審査（査読）いたしますので、投稿後、掲載決定までに若干時間がかかることをご了承ください。

原稿の内容は、社会言語科学に関する論文です。「社会言語科学」とは何か、きちんとした合意があるわけではありませんが、学際的な学会の性格上、その範囲を狭く捉えるよりも、より広く捉えたいと思います。言語あるいはコミュニケーションを、人間・文化・社会との関わりの中でとらえたものはすべて社会言語科学であると考えてかまいません。「社会言語学」に限定しているわけではないことにご留意ください。

論文の具体的なタイトルの例を示すわけにはいきませんが、今回の予稿集のタイトル一覧を見ると、「社会言語科学」の一部として興味深いものが並んでいます。

学会誌に論文が載ることで、結果的に「社会言語科学」とは何かがはっきりしてくるでしょう。

研究論文の他に、展望論文も募集しています。学際的な学会では、他分野の見通しがなかなか立たないことがあります。そういう壁をくずして、有意義な学会にするために、ぜひ、ご自身の直接関心を持っている領域を幅広く見渡し、他の分野の人に研究の動向などをお教えください。これが展望論文です。展望論文も自由に投稿できます。

学会誌は、他人の書いた論文を読むためのものであると同時に、あなたが書いた論文を載せて他人に読んでもらう場でもあります。学会誌を作り上げるのは、会員の一人ひとりの努力です。

よりよい学会誌を作りあげていくため、会員の皆様から多くの論文の投稿があることを待ち望んでおります。

学会誌「社会言語科学」の特集

学会誌は、会員の皆さんからの自由なテーマに関する投稿論文が主体になりますが、それだけでなく、ある特定のテーマに関する論文を集中的に掲載することで、その方面に関する注意を喚起することも重要であると考えます。そのために、学会誌として「特集」という形態を考えました。だいたい、年1回程度の「特集」を考えております。

特集に取り上げるテーマは、随時、学会誌編集委員会で検討しますが、学会誌掲載の1年前くらいにテーマをお知らせし、半年前を締切にするというようにしたいと思います。十分な時間的余裕がありますので、会員各位は、ふるって論文をご投稿ください。

特集に投稿された論文は、通常の投稿論文と同じく、査読を経て掲載が決定されます。また、一部の論文については、特集に対する投稿でなくても、特集に含めて掲載する場合もあるかと思えます。

なお、特集にあたっては、編集委員会から特定の方に原稿執筆を依頼する場合がありますが、その場合にも査読を行いません。

原稿の書き方、投稿のしかた、投稿先などは、通常の論文の場合と同じです。投稿に際し、

「特集」のための論文であることを明記してください。査読の期間などで配慮することがあります。

最初に取り上げる特集のテーマは「日本の言語問題」です。次のような日程で編集が行なわれます。御注意ください。

論文投稿の締切：1999年1月31日
掲載号の発行：1999年7月（予定）

特集・日本の言語問題

現代の日本が抱えている言語問題は伝統的な「国語問題」の枠をはるかに越えています。むしろ、「国語問題」も含まれますが、この他に多くの言語とインターアクション問題の場があり、どれも軽視してはなりません。

問題としてはたとえば言語変化への対応、話し言葉の発展、地域言語の保持、世代間のコミュニケーション、漢字や仮名遣いに関する種々の問題、ローマ字の安定性、リテラシー、語彙への政策、コミュニケーション・テクノロジー（電話、ファックス、コンピューターなど）の問題、公的場面と私的場面での言葉の使い方、コミュニケーションでのプライバシー、夫婦別姓、国語教育という課題などがあげられます。

また、日本の少数民族コミュニティと主流コミュニティのインターアクション問題、特種コミュニティの言語問題（言語障害者など）、世界と日本の間のインターアクションの諸問題、外国語教育の問題など、日本語以外の言葉の使用とつながる数多くの問題もあります。

さらに、理論の分野では、言語と思想、言語と権力、言語権利、言語問題と個人の立場、言語差別の類型、マクロとミクロの言語管理などをあげることができます。さらに、これらの問題を対象にするエージェント（国家、団体、協会、個人など）の行動の研究も必要です。

言語問題の研究は現在多くの研究領域の観点から行われますが、できる限りいわゆるエッセー方式ではなく、具体的なケース・スタディー、実際の社会行動のプロセスの研究が望ましいと考えます。問題を把握し、それについてデータを集め、考察を行うという処方箋です。「社会言語科学」の本特集でも、このような具体的な研究が主流になることが期待されます。

問い合わせ先：荻野綱男 (e-mail) ogino-tsunao@c.metro-u.ac.jp
(fax) 0426-77-2137
〒192-0397 八王子市南大沢1-1 (所在地省略可)
東京都立大学 人文学部 国文学研究室